

令和5年度第1回蟹江町総合教育会議 議事録

開催日時	令和5年7月4日（火）午前9時30分～10時30分
場 所	中央公民館 第3会議室
出席者等	町長 部 局：横江町長、政策推進室長、政策推進課長、同課主事 教育委員会：森田教育長職務代理人、山田委員、佐藤委員、太田委員、教育部次長兼教育課長、同課主幹
報 告 者	政策推進室政策推進課
傍 聴 者	なし

○開会

1 あいさつ

（町長）

改めましておはようございます。大変お忙しい中、令和5年度第1回蟹江町総合教育会議ということでお集まりいただきましてありがとうございます。平素は蟹江町の教育行政並びに各般にわたり本当にお力添えをいただいておりますことを感謝申し上げます。この後、報告事項、議題等々たくさんありますけれど、慎重審議の程よろしくお願ひ申し上げ、簡単ではございますが、冒頭のご挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひします。

（森田教育長職務代理人）

改めまして皆さんおはようございます。7月になりました。4月から新年度が始まり、教育委員会の新たな風として館林教育部次長をお迎えし3か月経ちました。新しい人に来ていただくことによって教育委員会も新たな気持ちで邁進していきたいと思っております。今日は蟹江町総合教育会議ということで町長、町職員の皆様と問題等を共有するための会議でございますので、皆様ご審議の程よろしくお願ひいたします。

2 報告事項

(1) 広島平和記念式典中学生派遣事業について

（政策推進課長）

広島平和記念式典への派遣ですが、G7 広島サミットが終わり、事務局から今年は平常開催するという開催案内が入りました。予定通り、8月5日（土）、6日（日）の1泊2日で、蟹江中学校、蟹江北中学校から合計10名の生徒を蟹江町の代表として派遣し、「広島平和記念式典中学生派遣事業」を実施してまいりたいと考えております。代表生徒たちは式典参列の他にも広島平和記念資料館の見学、同世代の生徒たちと平和について学ぶ平和の集いへの参加を通じて、戦争の悲惨さと命の大切さを学んできていただきます。その後、代表生徒には、平和記念式典派遣事業で学んできたことを、各中学校の文化祭などで報告して全校生徒で共有していただきたいと考えております。

また、今年も図書館で原爆パネル展を開催いたします。期間は8月2日から20日までとなります。広島・長崎での悲惨な出来事を風化させないよう、平和行政に取り組んでまいります。

(2) セントレア親子サマースクールについて

(政策推進課長)

小学校3年生から6年生までを対象に8月7日(月)に、中部国際空港株式会社の協力のもと、セントレアにおいて、小学生とその保護者が、世界とつながる空港の仕事について学ぶ機会を設けたいと考えております。広報7月号や対象児童あてにチラシを配布し、募集します。例年、倍率は6.5倍程度ということで人気のイベントとなっております。

(3) まちづくりミーティングについて

(政策推進課長)

中学2年生を対象に今年度も実施してまいります。10月23日(月)に蟹江北中学校で、11月27日(月)に蟹江中学校で、生徒さんと町長が直接、蟹江町の将来について意見交換する、まちづくりミーティングを開催したいと思います。

(4) 姉妹都市交流事業について

(政策推進課長)

こちらの事業については、平成22年3月26日に米国イリノイ州マリオン市と姉妹都市提携を結び、中学生海外派遣交流事業を実施してまいりました。コロナ禍で派遣交流事業が止まっていましたが、今年度、6月20日(火)から26日(月)の7日間、マリオン市派遣団受入から再開することができましたので報告させていただきます。今回はマリオン市から5名の学生が来町し、ホームステイを通じて日本の生活文化を体験するとともに、蟹江北中学校での1日学校生活体験や須西小学校での日本の昔遊びなどを授業の中で体験していただきました。また、祭人の須成祭りミュージアムや蟹江川の水郷めぐりなど、蟹江町の歴史文化についても学んでいただきました。来年は、いよいよ蟹江町から中学生をマリオン市に派遣することとなりますので、これからしっかりと準備してまいります。

3 議題

(1) 教育委員会の主な予算について

(教育部次長)

施設整備事業について、今年度の大規模工事としまして蟹江小学校中校舎屋上防水改修工事をさせていただくこととなっております。すでに契約を済ませ、9月末までを工期とし進めております。主に工事は子どもがいない夏休み期間をメインに進めてまいりたいと思っております。

学校教育支援事業について、昨年度から配置させていただいておりますスクールソーシャルワーカーの配置事業に1,907千円の予算をつけていただいております。こちらにつきましては1日3時間の職員を配置させていただきまして原則中学校、小学校それぞれ1校ずつ毎日出向いただきまして、不登校児童の問題を中心に相談や支援活動をさせていただいております。昨年度、1年間進めたところで数名の子どもたちについては今年度も継続的に巡回させていただき支援をさせていただきます。困難な家庭や不登校児童が多くなっておりますので、次年度について、少しソーシャルワーカーの配置を拡大できればなというところも考えています。

小中学校タブレット端末借上について99,668千円の予算をいただいております。5年間のリースで昨年度と同額の予算となっております。私も学校訪問等で実際にどのような運用をしているのか確認さ

せていただいております。今まで限られた時間で、限られた子どもたちの発言しか聞き取ることができませんでしたが、例えば、道徳の時間であればタブレットに自分の意見を書き、それを配信すると、みんなが一斉に閲覧することができるというメリットもあって、有効活用されていることを確認させていただいております。

スクールサポーター事業について、小学校は 26,780 千円、中学校は 11,041 千円となっております。学校現場から時間数の増加や人の増加の要望も若干あったため、予算は増額となっております。特別な支援が必要な児童生徒に対する補助や外国籍のお子さんたちのサポートも行っております。

外国語指導助手（ALT）派遣事業について、昨年度からの 3 年間の契約事業で同額の 15,246 千円、小学校、中学校合わせての予算をいただいております。派遣人数を昨年度から 3 名に増員させていただきましてさらに時間数、日数も増やすことができ、よりネイティブな英語に触れることができる時間を多くさせていただいたところでございます。

次に給食センター関係につきまして、給食賄材料費 176,974 千円になります。児童生徒 1 食単価が町からの補助 30 円も含めて、小学校が 260 円、中学校が 300 円という単価で献立を立てさせていただいております。しかしながら昨今の物価高騰を受け、限られた予算内で献立を作成することに苦慮しております。今年度につきましては交付金を活用させていただき、7 月から 3 月までの給食費の半額補助事業を実施することができました。

続いて生涯学習課関係になります。文化財保存活用地域計画作成につきましては、昨年度までの 3 年間のところで策定期間をすでに終了しております。今年度につきましては、文化庁へ提出させていただき、認定を得まして計画書の作成に入っていくところです。

最後に図書館関係です。学校図書館システムにつきまして 6,583 千円となっております。こちらは昨年 9 月から運用を開始させていただいております。今後につきましては校内の負担を考慮しますと司書の配置の検討が必要になってまいります。現在のところ学校現場では本の貸し出しがスムーズになり、児童生徒の読書への意欲向上につながっているということを知っています。また今年度、図書館の大きな事業といたしまして、181,962 千円の空調設備改修工事となっております。こちらは来年 3 月までを工期として進めているところです。夏休みが終わる 9 月以降は 2 階の利用を禁止とさせていただき、また、12 月以降は閉館という措置を取らせていただくことで、次年度以降の利用者に活用していただくべく体制を整えているところでございます。

（町長）

生涯学習課関係の文化財保存活用地域計画作成について、蟹江町としてもっと早く作っていくべきだったと思います。文化財は一度壊してしまうと二度と作れないという貴重なものが蟹江町にはあることを皆さん気づいてはいるのですが、予算等の理由でなごりにしてきた事実がありますので、ここで計画を立てながら文化庁の補助金制度を活用し、蟹江町にあります歴史文化の伝承に必要なハード部分、ソフト部分をやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

また、図書館については先ほど教育部次長が言ったとおり、当初は工期が遅れるかと聞いていたのですが、何とか工期通りにいきそうです。

（2）町立小中学校における現況について

（教育課主幹）

令和 5 年度学校教育等に関する行事・事業一覧の 4 月から 8 月についてです。学校行事・町行事等に

ついて、新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類に引き下げられたことにより、昨年度までとは異なり、基本的には新型コロナウイルス流行以前に戻して実施しております。町行事である須成祭も開催予定となっております。学校訪問ですが、昨年度同様に今年度も予定通り行うことができます。学習活動にはほとんど制限なく、先生方の指導の下に一生懸命学習に取り組んでいる子どもたちの様子が伝わってきました。先ほどの話にもありましたがタブレットなどのICT機器、また、さまざまな教材機器などを効果的に取り入れた授業が各学校で見られました。今後も子どもたちの様子を掴むために学校訪問を続けたいと思っています。教育委員会議ですが、4月から始まりまして、本日もこの後、予定どおり行われます。諸会議について、海部地方教育事務協議会が4月と6月に1回ずつ行われました。また来週7月11日（火）に海部南部教育委員会研修協議会が弥富市で開催される予定になっております。町校長・教頭会議ですが、4月から8月まで計4回の会議が行われる予定になっております。

次に生徒指導上の諸問題に関する調査結果について、暴力行為の発生件数ですが、令和4年度は小学校、中学校ともに生徒間暴力の数が増加しております。データを見ていくと特に、年度初めの報告数が非常に多く、半数を占めております。ちょっとしたトラブルからかっとなり手を出す事案が多いのが現状です。いじめの発生件数ですが、令和4年度は小学校で35件、中学校で9件となっております。いじめと疑わしいものはすべて報告してもらうようにとしているため、数字としては多くなってきているのが現状です。この流れは愛知県の方針が元となっており、令和になってからすべて報告しようという方針から発生件数が増加していますが、いまのところほとんどの案件は解決の方向へと進んでおります。いじめの解消まで至らなかった件についても、今年度も引き続いて対応を進めております。不登校の発生件数ですが、小学校は約1,830名の内47名、全体の約2.56%が不登校です。中学校は約950名の内57名、約5.95%が不登校です。昨年度と比較すると小中学校共に不登校数がかなり増加しているということがこの数字からもわかるかなと思います。小学校は特に高学年で割合が上昇しております。中学校では1年生が最も割合が高かったことが蟹江町の特徴となっております。また、外国人の不登校数が小中学校共に1割以上上がっていました。コロナ禍で外国に行くことが困難な状況から昨年度は学校に籍をおいたまま外国に行ってしまって、なかなか連絡がつかないというケースもあり、学校の先生が苦慮しているなということを知っております。

携帯電話所有状況と利用状況調べについてですが、学年が上がるにつれて所有率が上がっていることがわかります。小学1年生でも20%の所有率があることがわかります。また、自分専用の携帯電話を持っている児童生徒に聞いてくださいという質問に、SNSは使わずに電話しか使わないという割合は、学年が上がるにつれて少なくなっています。逆にSNSと電話の機能を両方使う割合は学年が上がるにつれて多くなってきています。この傾向は昨年度と同様にやはり学年が上がるにつれてSNSを使用している児童生徒の人数が多くなっていることがわかります。自分専用のSNS機器を所有している人数は、パソコンやスマートフォンなどといったものをすべて含めております。これも学年が上がるにつれて同じように所有率と使用率が上がっていることが分かってきております。保護者からの申し出を得て、学校に携帯電話、スマートフォンを持ってくることを許可している児童生徒数は、特殊な家庭事情で連絡を取らなければならない場合のみ学校が許可をしていますが、ほとんど該当者は上がっておりません。これは安心安全に学校に通っている証拠かと分析しています。

ひとり親の家庭数調査ですが、今年度の数字は昨年度に比べて横ばいになっていて、1割程度がひとり親の家庭であることがわかります。

自分専用の携帯電話を週2日以上使っている生徒は、学年が上がるにつれて使用する総時間も例年同

様に増加傾向にあることが分かります。

3 その他

特にありません

4 意見交換

(佐藤委員)

給食費について、今後上がる予定ということですか。

(町長)

急激に食材の金額が上がっても、材料の質を落として提供するという事はやるべきではないと思います。ただ、どこかで帳面を合わせていかなければならないため、最終的には給食費の値上げという話も出てきます。一方、国の動きとして、給食費をゼロにという動きはないわけではありません。それを地方自治体から率先して給食費をゼロにという自治体はあります。予算を見ていただいたらわかりますように、材料費に1億数千万円かかっているわけです。それを無料にすると歳入をどこから持ってくるか、非常に悩ましい問題だと思います。異次元の少子化対策と国は言っていますから、国のほうの手当として給食費無料を打ち出してくるのが、ひょっとしたら早い時期にくるのではないのかなと思います。が、どういう形で少子化対策が出るかはわかりません。

(森田教育長職務代理者)

給食関連で言いますと、先日、新聞でふれあい給食の記事をみましたが、コロナが明けたと言いますか日常を取り戻しつつある学校現場に町長に行っていただきまして、子どもたちの表情等はいかがでしたか。

(町長)

黙食は子供たちにとっては本意ではないでしょうし、それはもう楽しかったと思います。対面で給食を食べるのはパーテーションがあるとだめですね。しゃべりながらにこにこしながら給食を食べることがいいと思います。だからすごく楽しんでいましたよ。

(森田教育長職務代理者)

ありがとうございました。

(教育部次長)

私も月曜日に4年生と一緒に向かい合って給食を食べました。対面でも机と机の間に隙間が空いているのですが、本当にたくさんお話をしてくれました。町長をお迎えするにあたって、先週からグループで食べる練習をやってみたそうです。それまでは今までどおり、みんな前向きで食べていて、いつから対面で給食を食べてるの、と聞いたら先週からと言っていました。前向きとみんな向き合って食べるのとどっちがいい、と子どもに聞いたら、向かい合って食べるのがいい、と言っていました。今は机と机に隙間があるけど、もうちょっとするとこの隙間もなくなるかもしれないと子どもが言っていてかわいいなと思いました。

(森田教育長職務代理者)

私が聞いたかったのは不登校やいじめの問題もありますが、ここ2年間ぐらい学校現場においては団体生活を否定された環境の中で子どもたちも敏感に雰囲気を感じ取って、子どもたちにも負担がかかったことがこういった数字に表れているのかなということです。2年、3年程非常に負担をかけたかなと思っている中で、先日行われた生涯学習まちづくり推進町民大会で生徒の発表があって、コロナ禍が弊害だと思っていない、その中にも学びがあるという話をされていて、逆に考えさせられ、子どもたち

なりにいろいろなことを考えているのだなと改めて感心しました。また、生涯学習まちづくり推進町民大会で吹奏楽部が演奏をしてくれましたが、18名の新1年生が楽器を持たずにボンボンを持ってダンスをして盛り上げてくれました。本来はダンスをするために吹奏楽部に入ったのではないだろうなと思いつつながら、ただ新1年生は笑顔を絶やさずダンスも覚えてくれて、日頃やっていないことをその場で発表してくれました。こういう姿を見ると、もう少し経ったら楽器を一つ一つハードとして与えないといけなかなと思つています。こういう場所ではなかなか言えませんが、たくさん教育関係にお金をいただいておりますが、先日、町長からトイレ改修のための予算を必死で取りに行っていたとお聞きしました。また、トイレだけではなく以前からご尽力をいただいておりますことに感謝するとともに、さらに現場の環境をよくするためにさらに予算の確保をお願いしたいと思つております。

(町長)

頑張つてやっていきたいと思つています。トイレ改修の補助金のみならず、いろいろなことでお願いをして文科省には何度もお邪魔することになったと思つています。実は教育は百年の計なんですよね。子どもたちがしっかり基礎知識と基礎能力をつけることによって羽ばたき方が違うと思うので、我々の時の教育とは全く違うと思つています。私や山田委員と年はあまり変わらないと思つていますが、当時の合計特殊出生率はもっと高かつたと思つています。当時は170万人ぐらゐ生まれていまふ。今は80万人生まれなふのです。そうなつてくると20年後の日本の社会が見えているのです。生涯学習まちづくり推進町民大会の発表者ですが、実をいうと沖縄県読谷村交流事業派遣中学生をベースにして呼んだのです。単なる芸能団や大人を呼んでやるのを差し控えさせていだけて、できれば次代を担う子どもたち、蟹江町の交流事業派遣で中学生が8月21日(月)から読谷村へ行きます。そのメンバーで選出してくれないか、ようするに沖縄伝統文化歴史を伝えてくれる若い子たちがいなふそうです。この3年間研究会などへ行く子がなくなつたようです。危機感を指導者は覚えていふということ、沖縄でも伝統芸能を伝えていこうという動きがあります。なぜこのような話になつたかという月曜日になぜ来ることができたの、学校は休んでよかつたのと沖縄の生徒へ聞くと、文化伝統歴史のことで休んでも、学校は公休になるようです。彼らは特命を帯びて来ています。彼らは沖縄の文化を絶やしていけないということを知っています。蟹江町も須成祭とは言いまふせんが地域の歴史文化の何かを持って交流を行つてくれる、伝えてくれる使節団になつてくれるとありがたいなと思つています。ですから、読谷中学校へ行つて、あのエイサー良かつたねと言つた話ができるように、吹奏楽部から読谷村へ行く方がいるかはわかりまふせんが、でも、何か文化の違うところと接するのはいいし、マリオンも積極的に応募してほしいと思つています。せつかく遠くから来てくれたのですから異文化交流は絶対やるべきだし、SNSでの机上の勉強もいいですが、やっぱり地域の伝統は誰かが伝えていかなふと途絶えてしまふ。先ほどの文化財保存活用地域計画もこのようなものをベースとして前へ進んでいかなふと次がなくなります。須成祭も3年やっていなふから提灯の付け方がわからなふと言つていました。盆踊りって何という子が出てきましたので洒落にならなふ時代です。舟入はコミュニティがしっかりしているからすごいよね。それでも人が少なくなつてきています。子ども会も婦人会もどんどん衰退していく事実を我々もしつかり受け止めていかなふといけなふ。次の時代を担う子供たちのために地方自治体としてもしつかり運営していき、文科省に対してもハード面もソフト面もいろいろ働きかけていきたいと思つています。

(山田委員)

今回の沖縄県読谷村との交流ですが、やはり町長が言われましたとおり、大人の方の披露ではない、中学生同士が全く違ふ他県と交流する今回の企画は例年とは違つた良い趣だつたと思つています。

(町長)

ありがとうございます。

(森田教育長職務代理者)

交流を図るとともに、我々も教育委員会として沖縄へお邪魔させていただきましたが、平和教育の一環ですので、沖縄で何が合ったかも学びに行く、そういったことも含めた交流事業ですのでぜひ続けていただきたいと思います。